

(様式1)

大阪市立八幡屋小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○小中9年間を見越したカリキュラムの策定や研究授業の実施を始め、指導法の改善と工夫を進めるとともに、体験的な学習の深化と充実を図り、知的興味や関心の励起し、学力の定着に向けた取り組みを進めている。また、家庭学習の習慣化を目指し、保護者との連携の強化や「漢字検定」の取り組みを行なっている。このような現状の中、一定の効果も表れているが、主体的な学習については、全校的な課題も残っている。よって、今年度についても積極的に取り組みを進め、更なる学力の向上に努めるため、学力の向上について、以下の中期目標とする。

○学校行事や学年行事をはじめ、校内外の様々な取り組みを通じて、自己肯定感や自己有用感に富み、規範意識や授業規律の確立を目指す中、一定の結果も生じているが、児童個々の課題もあり、自己実現に対する意識や認識も様々である。よって、今年度についても積極的に取り組みを進め、更なる道徳心・社会性の育成に努めるため、以下の中期目標とする。

○授業をはじめ、校内外での様々な取り組みを進める中、全国体力・運動能力テスト、運動習慣調査や校内の学校教育アンケートでは、一定の成果が出ている。一方、食生活を含めた基本的な生活習慣には、児童個々の課題もあり、保護者との連携強化も欠かせない。今後も、健康・体力の一層の保持増進を図るため、以下の中期目標とする。

中期目標

【視点 学力の向上】

- 児童の学力実態を正しく把握し、指導法の工夫と改善や教育内容の充実を図り、教職員の指導力の向上とともに、体験的な学習や小中一貫の取り組みの充実と深化を進める中で、学力の向上を目指す。概ね3カ年で、全国学力・学習状況調査における「自分で計画を立てて勉強していますか」の項目について「している（どちらかといえばしている）」答える児童の割合を、府や全国の割合に近づける。あるいは学校教育アンケートにおける「体験学習に積極的に参加し学ぼうとしている」の項目の肯定的な回答の割合を向上させる。

（カリキュラム改革・マネジメント改革・ガバナンス改革関連）

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 校内外の様々な取り組みを通じて、自己肯定感に富み、知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かで、何事にも意欲的に取り組む児童の育成を図る。概ね3カ年で、全国学力・学習状況調査あるいは学校教育アンケートにおける将来の夢や目標に関する項目の肯定的な回答の割合を年度毎に向上させる。

（カリキュラム改革・マネジメント改革・ガバナンス改革関連）

【視点 健康・体力の保持増進】

- 児童一人一人の健康、体力の保持増進を図るため、校内外での様々な取り組みを進め、概ね3カ年で、全国体力・運動能力テスト、運動習慣調査の結果を向上させる。あるいは学校教育アンケートにおける「食事に興味を持ち、大切に考えている」の項目の肯定的な回答の割合を向上させる。

（カリキュラム改革・マネジメント改革・ガバナンス改革関連）

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- 1 読書、漢字、計算などすべての学習の基礎基本となる取り組みや社会見学・ゲストティーチャーなどの体験的活動を通して、学習意欲を高め、学力の定着を図る。全国学力・学習状況調査における「自分で計画を立てて勉強していますか」の項目について「している（どちらかといえばしている）」と答える児童の割合を、府や全国の割合に近づける。あるいは学校教育アンケートにおける「体験学習に積極的に参加し学ぼうとしている」の項目の肯定的な回答の割合を向上させる。また、漢字検定や「しんだん」などの結果を少しでも向上させる。

（カリキュラム改革・マネジメント改革・ガバナンス改革関連）

【視点 道徳心・社会性の向上】

- 2 保護者や地域との連携を進める中で、基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成を図り、友だちの気持ちを思いやり、大切にすることを育む。全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を府や全国の割合に近づける。さらには学校教育アンケートにおける将来の夢や目標に関する項目の肯定的な回答の割合を向上させる。

（カリキュラム改革・マネジメント改革・ガバナンス改革関連）

【視点 健康・体力の保持増進】

- 3 保護者や地域の協力のもと、健康で安全な生活習慣を身につけさせ、全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果を向上させる。あるいは学校教育アンケートにおける「食事に興味を持ち、大切に考えている」の項目の肯定的な回答の割合を向上させる。

（カリキュラム改革・マネジメント改革・ガバナンス改革関連）

3 本年度の自己評価結果の総括

食育の取組を中心に、地域内外の多様なゲストティーチャーとの連携や芸術鑑賞・社会見学等の体験的な学習を全学年で年間を通して実施してきた。「ほんもの」と出会うことで、学習への知的な興味関心を高め、学習への意欲も高まり、自分で計画を立てて学習する児童も増えてきた。また、朝学習等の繰り返しや、漢字検定、計算検定、音読大会等の取組、読書指導の充実により、基礎基本が一定定着しつつある。今後も保護者との連携をさらに密にし、家庭学習の充実を図るとともに、児童の実態を分析し、学力向上に向けて、学習規律や効果的な指導法の工夫・改善をさらに図っていく必要がある。

児童によるキャンペーン活動により、基本的生活習慣についての意識化が図られつつある。地域行事への参加や90周年記念行事の取組や地域・異種校と連携した取り組みおよびHP等による情報発信により、地域・保護者等との連携を深めることができた。また、キッズタイムや集団登校等のたてわり活動や異学年交流等により、中・高学年では「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の肯定的な答えが大幅に増えてきている。今回肯定的な答えが減った低学年も含めて、他者と関わる活動を通して、自己肯定感を高めるとともに、あいさつ運動等の取組を粘り強く徹底して行うことにより、規範意識や成就感の向上を図っていききたい。

「ハンカチ忘れ」「歯みがき」等の取組と、様々な配布物やHP等による地域や保護者への啓発により、健康で安全な生活習慣への協力が徐々にではあるが得られるようになってきた。食に関する体験学習や日々の給食指導や広報活動により、学校アンケートでは給食に関する肯定的な評価が増えた。美化に関しても点検活動により、ていねいに清掃するようになった。「全国体力・運動能力、習慣調査」の体力合計点の平均値は昨年度より男女とも約5点下回った。総合評価でもD・E評価が多く、当該学年の4年生時の結果と同傾向であった。結果向上に向けて、事前指導の充実や意欲づけ、個人記録を活用した目標設定、運動の時間と質の確保と場の設定等に取り組む必要がある。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだ目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】 1 読書、漢字、計算などすべての学習の基礎基本となる取り組みや社会見学・ゲストティーチャーなどの体験的活動を通して、学習意欲を高め、学力の定着を図る。全国学力・学習状況調査における「自分で計画を立てて勉強していますか」の項目について「している（どちらかといえばしている）」と答える児童の割合を、府や全国の割合に近づける。あるいは学校教育アンケートにおける「体験学習に積極的に参加し学ぼうとしている」の項目の肯定的な回答の割合を向上させる。また、漢字検定や「しんだん」などの結果を少しでも向上させる。 （カリキュラム改革・マネジメント改革・ガバナンス改革関連）	B
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗状況を測る指標	進捗状況
取り組み内容 【区分 言語力の育成と自主学習習慣の定着、個に応じた学習指導の充実、言語活動に関する指導、問題解決への取り組み】 ① 社会見学やゲストティーチャーなどの体験的学習の深化・充実を図る。 （カリキュラム改革） ② 様々な取り組みを通じて、興味と関心を高め、郷土大阪や伝統・文化を知る。 （カリキュラム改革） ③ 「しんだん」や「全国学力・学習状況調査」「学校教育アンケート」の結果を細かく分析し、児童の学力や生活の実態を把握する。（マネジメント改革・ガバメント改革） ④ 読書、漢字や計算力を始めとする、学習の基礎・基本の力の育成を図る。 （カリキュラム改革・マネジメント改革・ガバメント改革） ⑤ 自分や友達、家族を大切にできる態度を育てるとともに、言語力や表現力の育成を進め、コミュニケーション力の向上を図る。 （カリキュラム改革・マネジメント改革・ガバメント改革） ⑥ 算数科の研究に取り組み、日常の中で算数の世界に親しめる環境を整え、算数における言語力の育成や算数的活動の指導法を工夫し、学力と意欲の向上を目指す。 （カリキュラム改革・マネジメント改革） ⑦ 家庭学習定着への啓発活動を継続する。 （マネジメント改革・カリキュラム改革）	B
（指標） 全ての教科で実施計画どおり実践する。	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析

〈年度目標〉

食育や農業的な取り組みを中心に、多様なゲストティーチャーを招くなど体験的な活動に取り組んできた。「ほんもの」に出会うことで、児童の意欲は高まった。全国学力・学習状況調査における「自分で計画を立てて勉強していますか」の項目については、H24・H25年度の32%台から47.4%と大きな伸びを見せた。

児童への学校教育アンケートにおける「体験活動」に関する項目では、高学年、低学年とも、肯定的な評価が向上している。数値としては大きくはないが、昨年度から十分な結果が出ている。

〈取り組み内容〉

- ① 社会見学やゲストティーチャーなど様々な体験活動に取り組んだ。毎年のように継続的に取り組んでいるものが多いので、深化と充実が進み、学年に応じた、多様な体験をすることができた。
- ② 文楽や能の鑑賞、大阪市内、府内や地域への校外学習などを通して、郷土の伝統・文化に触れる機会を多くもつことができた。
- ③ 「全国学力・学習状況調査」では、国語・算数とも、全国や大阪府の平均との差が縮まった。各種アンケートでの、家庭学習への意識調査でも、昨年度よりおおむね向上している。しかし、家庭での復習の時間が少ないなど、課題も明らかになってきている。
- ④ 全学年の図書を一人の教員が担当することで、系統的な指導ができています。1、2学期には、音読大会を実施し、それぞれの学年の実態に応じた発表ができた。漢検や本校独自の計算検定への取り組みを進め、意欲が向上し、回を重ねるごとに、少しずつではあるが、力がついてきている。
- ⑤ それぞれの学級・学年で、おたがいを分かり合い、思いやりの心を育てる実践を行い、トラブルは減ってきている。しかし十分とはいえないので、継続的に取り組むことが必要。
- ⑥ 全教員が行った研究授業への取り組みを中心に、指導法を工夫し、教職員で共通理解している。
- ⑦ それぞれの学級・学年で、家庭学習への取り組みを工夫している。しかし課題の大きい児童や家庭が依然みられる。

次年度に向けての改善点

- ① 本校の特色として、社会見学や、各種体験学習が、効果を上げているが、学年の偏りもあるので、学校全体の実施計画の見直し・精選・整理が必要である。
- ⑤ 人前で、堂々と発表できない児童が多い。スピーチなどの場や機会を増やすなど、話す・聞く能力、コミュニケーション力を身に付けさせる工夫が必要である。
- ⑦ 授業に臨む態度、準備物、家庭学習など、学習規律にかかわる部分で、課題が大きい。学校全体で共通理解し、改善のための取り組みを進める必要がある。

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>2 保護者や地域との連携を進める中で、基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成を図り、友だちの気持ちを思いやり、大切にすることを育む。全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を府や全国の割合に近づける。さらには学校教育アンケートにおける将来の夢や目標に関する項目の肯定的な回答の割合を向上させる。</p> <p>(カリキュラム改革・マネジメント改革・ガバナンス改革関連)</p>	B
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取り組み内容（2）</p> <p>【区分 基本的な生活習慣の確立、規範意識の育成、保護者・地域と連携、異年齢集団による交流】</p> <p>① 名札をつけ、赤白帽をかぶり、丁寧に清掃を行うなどの意識向上を図る。 (マネジメント改革・ガバメント改革)</p> <p>② 右側歩行の定着を図り、けがのない安全な学校生活を送らせる。 (マネジメント改革・ガバメント改革)</p> <p>③ 地域行事に積極的に参加させるなど、地域と交流し、地域に開かれた学校づくりを行う。 (カリキュラム改革・マネジメント改革・ガバメント改革)</p> <p>④ 縦割り活動や異学年との交流の場を増やす。 (カリキュラム改革・マネジメント改革)</p> <p>⑤ 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな集団の育成を目指し、相手の心情を理解し、相手の話を最後まで聞く態度を育て、自己肯定感を高める取り組みを図る。 (カリキュラム改革・マネジメント改革・ガバメント改革)</p> <p>⑥ 様々な取り組みを進める中で、平和や人権についての学習を深める。 (カリキュラム改革・マネジメント改革・ガバメント改革)</p>	B
指標) 全ての教科で実施計画どおり実践する	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析

〈年度目標〉

全体指導や学級指導、児童の活動として多くのキャンペーン活動に取り組むことによって基本的な生活習慣についての意識化が図られつつある。地域の行事に積極的に参加するよう、学校からチラシの配布や呼びかけなどをおこない、学校行事やHPを通して学校公開を進めることで地域・保護者との連携を深めることができた。

しかし、全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について前進が見られない。学校教育アンケートの同内容の項目は、これまで肯定的な回答が低学年では高く、学年があがるにつれて下がっていく傾向にあったが、中・高学年で大幅な前進がみられた。逆に低学年では後退しているという結果になった。

〈取り組み内容〉

①赤白帽子は定着してきているが、名札がそろっていないことが多い。

美化委員会のチェック活動により、清掃をきちんとしようという意識が向上している。

②委員会活動による校内掲示や1ヶ月間を通したキャンペーン活動により、意識は高まったと言える。

安全点検を中心に校内の安全強化に努めてきた。

③地域行事に積極的に参加している。

キッズバンドをはじめとして校庭キャンプや地域の祭りなど積極的に参加している。

④キッズタイム・クラブ活動・委員会活動・異学年交流など多くの機会を設けている。

⑤児童会の中心にあいさつ運動を中心に取り組んだ。（11・12月キャンペーン）

90周年に取り組む中で「八幡屋」という所属意識が少し芽生えてきたように感じられる。

⑥平和教育強調週間が定着するとともに、修学旅行先の変更による集団疎開についての平和学習の実施等、取り組みの強化を継続的に行っている。

次年度に向けての改善点

①登校指導の中で、忘れた人は25分まで奉仕活動（あいさつ運動）をする等の取組を考える。

②重点チェック期間も検討していく。

⑤あいさつの仕方・元気の良さを中心にする。地域にも協力を依頼する。

教職員で共通理解のための研修を行い、学校全体で取り組む必要がある。

キッズチーム・紅白組・応援団など所属意識を強く持つ取り組みをさらに検討していく。

⑥実践報告会で共通理解をし、継続して取り組んでいく。

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>3 保護者や地域の協力のもと、健康で安全な生活習慣を身につけさせ、全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果を向上させる。あるいは学校教育アンケートにおける「食事に興味を持ち、大切に考えている」の項目の肯定的な回答の割合を向上させる。</p> <p>(カリキュラム改革・マネジメント改革・ガバナンス改革関連)</p>	B
度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取り組み内容(3)</p> <p>【区分 体力向上、健康的な生活習慣、食育、基本的な生活習慣の形成】</p> <p>① 遊具や教具の整備と充実を図り、進んで楽しく運動させる。</p> <p>(カリキュラム改革・マネジメント改革)</p> <p>② 手洗い及び清潔なハンカチ携帯の習慣を身につけさせる。</p> <p>(マネジメント改革・ガバメント改革)</p> <p>③ 食の体験学習や給食指導を通して、食への関心と食事のマナーを向上させる。</p> <p>(カリキュラム改革・マネジメント改革・ガバナンス改革関連)</p> <p>④ ていねいに清掃活動ができるよう指導する。</p> <p>(マネジメント改革・ガバメント改革)</p> <p>⑤ 基本的な生活習慣の確立をめざし、あらゆる機会を通じて、保護者との連携を強化する。</p> <p>(マネジメント改革・ガバメント改革)</p>	B
<p>(指標) 全ての教育活動を通じて実施計画どおり実践する。</p>	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析

〈年度目標〉

保護者や地域への啓発に努めることにより、健康で安全な生活習慣への協力が徐々に得られるようになってきた。

全国体力・運動能力調査の体力合計点の平均値は、昨年度より男女とも約5点下回った。総合評価では、Aが0％で、Bは男子が4％、女子が12％増えたものの、D・Eもそれぞれ男子が9％・22％、女子が6％・24％増え、結果が向上するには至らなかった。

学校教育アンケートの肯定的な回答は、昨年度より「給食の時間にみんなと食事をするのが楽しい」の項目が、低学年で9％増え、「給食は好き嫌いせずできるだけ残さず食べている」の項目が、高学年で6％増える結果となり、食への関心が向上した。

〈取り組み内容〉

- ① 遊具や教具の整備、充実に努めることにより、体育の時間やキッズタイムに楽しく運動に取り組んだ。休み時間も、低・中学年では多くの児童が外遊びをしていたが、高学年ではまだ半数ほどにとどまっている。
- ② 「ハンカチ忘れゼロ」の取り組みにより、ハンカチ携帯への意識が高まってきた。しかし、ハンカチ携帯の習慣がなかなか身につかず、丁寧な手洗いができていない児童もまだいる。
- ③ 野菜や米作り、市場見学やゲストティーチャーによる食育などの体験学習を通して、食への関心が高まった。日々の給食指導や校内放送での呼びかけにより、食事のマナーも向上してきた。
- ④ 学級指導や美化委員会の点検により、時間内にていねいに清掃するようになった。清掃用具の使い方や片づけへの意識も高まってきたが、清掃用ロッカーのゆがみやほうきの紛失なども一部に見られる。
- ⑤ 基本的な生活習慣について、学校だよりやホームページ、懇談などを通じて、児童の様子や学校の取り組みを知らせ、保護者との連携に努めた。

次年度に向けての改善点

- ① 体力・運動能力調査の結果向上への意欲が高まるよう、事前指導の充実に努めるとともに、前年度の個人記録を活用した意欲づけを行う。

遊具を活用し、休み時間に運動場で遊ぶよう声かけや時間の確保、場の設定をする。
- ② ハンカチ携帯の習慣が身につみにくい児童への指導を継続する。
- ④ 清掃用具及び保管用備品の点検、整備に努める。